

令和5年度 研究推進部方針

令和5年4月

<研究主題>

子どもが主役の「楽しい」「わかる」「伝えたい」 授業づくり

<研究の方向性>

児童が主体となる授業を目指して、授業の中で、この授業で学んだことやわかったこと、どうやったらできるようになったかななどを「伝える」取組を取り入れる。今までもふりかえりという活動で取り入れてきているが、それを膨らませるような形である。それを問題解決の時や、その後に取り入れることで、児童たちで授業を作り上げるようにしたい。そして、伝えるためには聴くことも大切になるため、受け身で教えてもらうのではなく、自分で学び、伝えられるように意欲も育てていきたい。

<研究仮説>

すべての児童が授業に参加でき、学習内容を理解できるような指導方法を工夫することで子どもたちが「できる喜び」や「わかる楽しさ」を感じ、自ら「もっと学びたい」「これからに生かしたい」「伝えたい」と意欲的に学習に向かえる児童を育成できるのではないだろうか。

子どもたちが授業の中で学習内容を理解し、自分の学びや気づきを意欲的に書いたり、伝えたりできる授業づくりが大切であると考えます。

学習意欲を高めさせるめあての提示や、児童の興味・関心を高める教材の工夫、全員参加の方法や手立て、子どもたちの授業の振り返りの活用などの授業改善を行いながら授業づくりを進めていきたい。

教師も子どもたち自身も自分たちの授業を振り返り、お互いに自分たちの授業をよりよく高めていけるような授業改善を行っていくことで、『子どもが主役の「楽しい」「分かる」「伝えたい」授業づくり』を実践できるのではないかと考える。